

3.6 総武国電全線スト闘いぬいて

拠点＝津田沼支部組合員の感想



3.2～6の5日間のジェット燃料ストをひきつぎ、完璧にうちぬかれた3.6全線ストライキ。スト拠点・津田沼駅東区入口での組合員支援。1,500名の勝利確認の大集會

日刊 動労千葉

81.3.17

No.692

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）四五三二七～二七

密集せる反動はね返し、全蓄積かけかちとった
ストライキ
片岡津田沼支部執行委員長

81・3 決戦とりわけが津田沼支部の3・6ストライキは、動労千葉一三〇〇名の拠点を担って、今日までの闘いの全蓄積をかけて闘い続けたものと言えます。特に、組合員が圧倒的に若い青年部員であるという組織的事情を克服し、この全体が3・6ストライキの意識的目的をもって決起し、貫徹したところに歴史的なものがあつたといえます。権力、当局、動労「本部」を含めた密集せる反動攻撃によく耐えぬき、一四〇名組合員の一人一人の頑張りは、目をみはるものがありました。意気高く、それでいて緊張の中で闘いを買徹したわけで、もちろん、この闘いに対する弾圧も予想を越える攻撃としてくるでありましょう。しかしわれわれは全組合員がうって一丸となり責任もつてこの闘いを貫徹した以上、むしろ闘いはこれからなんだという真直な決意のもとに、一層組織をうち鍛え固めぬいて闘い続けていくことです。

国労の仲間の共闘・決起に感謝

最後に、この歴史的な闘いを最後まで闘いぬいた津田沼支部一四〇名組合員の皆さん、ならびに権力・当局の圧殺に断然攻撃をものごとく粉碎して労働者として共に闘う者としての決意を寄せられた国労千葉地本の仲間の皆さんに心から敬意を表したいと思います。この全く正しい闘いにはつきりと確信をもち、われわれは今後も共に闘いぬいていく決意であります。

労働者として、この闘いを担ってよかった

電運士Aさん（35才）

権力や当局は旅客をそっちのけにしてもジェット燃料輸送最優先の方針をゴリ押しするという反動的姿勢をあらわした。空港そのものの必要性は一般でも明らかのように80%以上が遊びである。われわれの闘いは三里塚空港廃港の闘いであり、それが全く正しい。労働組合として労働者として今回このような闘いができたことはよかつたと思う。これからの進むべき労働運動の闘いを我々はやつたと思つてゐる。

「本部」派は、全くどうしようもないものだという事がわかつた。自分達の利益、というより特に革マルの利益のみにきゅうきゅうとしてゐるだけだ。

大衆的な支援行動は大きな成果があつた。歴史の中で砂川基地拡張反対闘争の中でも、完全には成しとげられなかつた労働者と農民の完全な共闘と全国的な支援行動が、今度の闘いの中では完全に実現できたことは一番良かった。3月6日に、あれだけ多くの支援が来てくれたのには

労働者の魂を売り渡した

「本部」派を許せない

電運見習Bさん（25才）

「ヤツタ」という充実感が本當にこみあげてくる闘いだつた。「本部」革マル分子のスト破りは絶対に許せない。ふだんおとなしい組合員が、「本部」派に対し「お前は、テレビや軍手で労働者の魂を売り渡したんだぞ！」（※註）「お前らのようなやつがいるから、俺たち

右傾化する労働運動に

うちこんだクサビ

電運士Cさん（35才）

三月六日の24時間ストライキは、労働連帯の真価をかけたものとして全力で闘い続けた。総武線が一本も動かない中に、動労千葉千三百の底力を確信できる。この闘いこそ三里塚農民はもとより全ての労働者が待ちのぞんでいたものであり、今日の右傾化の道をひた走る日本労働運動にくさびをうちこむ闘いであつたと

ちはストライキをやるんだ」という怒りの声を口々にあげていた中に、今回の闘争の勝利が示されていたと思ふ。闘いは、これから勝負だと思ふ。たつた何日間ではあつたが、俺たちは日本をゆり動かしたんだ。この確信に立つてこれからも前進しようと思ふ。【註】「本部」派が、当局と交渉して「詰所にテレビ一台備える、機関士に軍手を年間10双与える」事とひきかえに燃料輸送延長を認め、助役機関士と一諸になつてスト破り列車を運転した事実をさす】

実感できる。

「本部」派のスト破りと秋山差別労政を眼のあたりにして、3・6ストへの職場の高揚はかつてないほどだつた。本来のストライキのあるべき姿を全国にさし示し、全国の労働者の共感を呼び起し、職場で苦闘している仲間の魂をゆり動かすことだろう。皆さんそれを確信して闘つたから、津田沼支部でも役員・活動家・組合員が一体となつて決起し、すばらしい熱気がいまだ伝わってくるようだ。